



ひなどり

園だより 7月号

令和2年7月1日

新潟市立新津第三幼稚園

「ナナメの関係」を創る『シャッフルタイム』

園長 間嶋 哲

通常保育が再開されて1か月が経ちました。例年のように、小学校のプールで水泳をしたり、水着を着て水遊びをしたりすることはできませんが、教職員で知恵を絞る、「子どものためにできること」を探し続けています。9月26日(土)の運動会についても、実施の仕方や種目等を、現在検討しているところです。

ところで、今年度から始めていることに、『シャッフルタイム』があります。一言でいえば、定期的に学級担任を交換することです。併せて、そこで得た情報を、みんなで共有する『保育カンファレンス』を実施しています。以下は、その際に出てきた職員の感想の一部です。

子どもも嬉しくて、周りに集まって話を聞いてほしい、一緒に遊んでほしいといった姿が多かった。今後、継続すると、どのような姿になっていくのか、子どもたちの関わり方の変化を継続して見ていきたい。年少クラスは「隣のクラスの先生」が分かっていたことで、大きな戸惑いや不安、抵抗感もそれほどなく自然な形でシャッフルタイムを行えた。

小学校でも部分的に教科担任制を導入することは、さほど珍しいものではなくなりました。一人の学級担任が大勢の子どもと向き合い、保育の中で信頼感を育んでいくことは大前提ですが、担任教師が見えていない一人一人のよさを、他の保育者が偶然発見することもあります。子どもの側に立てば、直接担任には言えないことがあったとしても、「他の先生になら言える」ということも現実にはあります。日常生活においても、たとえば「お母さんには言えなくても、おばあちゃんになら言える」ということもあるようなものです。

保護者と子ども、あるいは担任と子どもとが「タテの関係」、同級生同士が「ヨコの関係」とすれば、あえて「ナナメの関係」が生まれるような場を創りだすと、子どもにとって今以上に居心地の良い環境となるかもしれません。

子ども自身が考え、実際に行動できる『ワクワクふれあいタイム』は、昨年度から始まり、子どもたちには大好評でした。今年度は、それに併せ、すべての教職員が62名の子どもに関わる『シャッフルタイム』を活用し、「いろいろな先生たちが来るのも楽しみ」と言ってくれるようになるのを目指します。

何かを変えていくためには、まず枠組みから大胆に変えていかなければなりません。そして、一人の子どものよさを多面的に把握するためには、多くの保育者の眼も不可欠です。当園は、子どもにとって良いと思ったことを、どんどん取り入れる幼稚園です。

